

## 「立ち隠れ」の用語について

「立ち隠れ」についてはさいたま市文化財である大門宿脇本陣表門や深井家長屋門にある、さいたま市文化財課の解説がされている立て看板に次のように書かれている。

「この表門は、寄棟造、茅葺きで、「立隠れ」（門構えが半間引っ込む）  
・・・」とある。この用語について建築辞典などを調べてもそれはのっていない。

この呼び方はさいたま市において使用されている用語のようである。では、この用語の出所は何に由来しているのだろうか。さいたま市の歴史や文化財に造詣の深い青木義脩先生にお聞きしたところ、大門宿本陣表門を解体修理した際に、構造材のほぞに創建の時期・元禄7年と「長屋立隠ホゾニ有之」と墨書されていることが「大門表門報告書」に記載されているという。

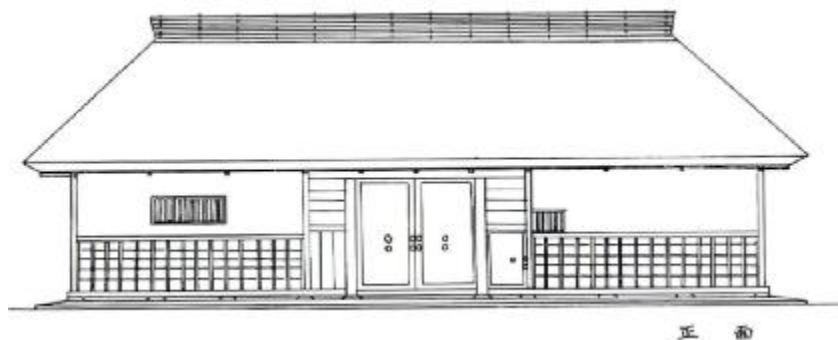
この表現は長屋門の入口部の引っ込み部分を指しているのだろうか？この用語の意味を考えると入口部の引っ込み部分に立つと、姿が壁の陰に隠れるようになる様子だと言えることから使われだしたのだろう。

建築の部分の名称としては文学的表現過ぎるように思うのだが。



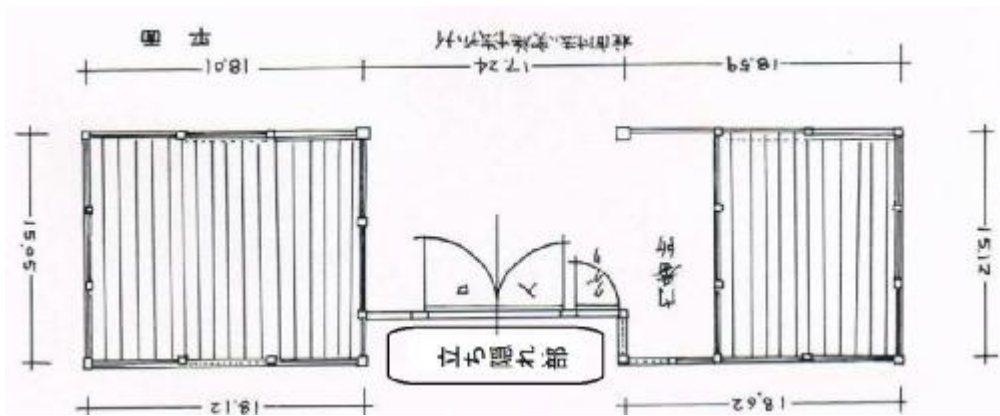
発見墨書銘（文政修理）発見墨書銘（元禄建立）

左：「立・・・」の文字が薄く見える 右；七のが微かに見える



正面

大門宿本陣表門の正面



上 平面図 下 昭和47年の修理前の長屋門

写真と図面は「大門宿脇本陣表門解体修理報告書」より



大門宿脇本陣表門の立て看板